

那珂市議会 総務生活常任委員会記録

開催日時 令和8年4月14日（火） 午前10時

開催場所 那珂市議会全員協議会室

出席委員 委員長 小宅 清史 副委員長 鈴木 明子

委員 小池 正夫 委員 寺門 厚

委員 木野 広宣 委員 遠藤 実

欠席委員 なし

職務のため出席した者の職氏名

議長 大和田和男 次長 海野 直人

次長補佐 岡本奈織美

会議に付した事件

(1) 調査事項について

…今後の調査事項について協議

議事の経過（出席者の発言内容は以下のとおり）

開会（午前10時00分）

委員長 それでは開会前にご連絡いたします。

換気のため廊下側のドアを一部開放して常任委員会を行います。

ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ご連絡いたします。

会議は公開しており、傍聴可能といたします。また、会議の映像を庁舎内のテレビに放送いたします。会議内での発言は必ずマイクを使用し、質疑答弁の際は簡潔かつ明瞭をお願いいたします。携帯電話をお持ちの方は電源を切りいただくかマナーモードにするなどの配慮をお願いいたします。

ただいまの出席委員は6名であります欠席委員はおりません。定足数に達しておりますのでこれより総務生活常任委員会を始めさせていただきます。

職務のため議長、及び議会事務局職員が出席しております。

ここで議長よりご挨拶をお願いいたします。

議長 改めましておはようございます。

先ほどからお話がありました小・中学校の入学式も終わりと、そして桜も散って新緑の季節になってまいりました。

議員の各位、皆様におかれましては日頃のご活動大変お疲れさまでございます。

今日は総務生活常任委員会で調査事項の検討ということですかね、長い期間をもって調査するかと思います。今日はその始めということで、いろいろ皆様のご意見を賜ってすばらしい調査事項にさせていただくことを祈念いたしましてご挨拶にかえさせていただきます。

きます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

委員長 ありがとうございます。それではこれより議事に入ります。

調査事項についてを議題といたします。

当委員会では今後調査等を行いたい案件について、委員の皆様のご意見を頂きたいと思ひます。

今回添付資料といたしまして過去の総務生活常任委員会の調査事項として令和2年度から事務局のほうにお願ひして用意していただいております。

そしてもう1枚のほうは、総務生活常任委員会の所管と思われるテーマの中で私がピックアップしたもののなので、この中から選んでいただいても構わないですし、これ以外のものでもこういったものというものがあれば、提案していただけて結構でございます。

まず、こういうのがいいんじゃないかっていう話を委員から出していただけて、その意見に対して、皆さんからいろんな、さらにそれに意見をいただけて、1年間調査事項として耐えうるものかどうかというものも検討していきたいというふうに思ひます。

よろしくお願ひいたします。

ご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

寺門委員 総務生活の所管ということですので非常に幅広いですけれども、私は自治会の活性化ということで、今、私のところの自治会も、欠員っていうか高齢者の方が抜けていく。五、六人も減っちゃうんですけどもね。あとごっそりもう組内とか、町内会単位でやめてしまわれる方もいらっしゃってですね、これから先考えるとどうしたものかなということですね、実際に役員じゃなくて地元の人たちがどうその地元の町内の活性化していこうかっていうところで非常に悩みが深いので、どっか先進の自治体の成功例をちょっと参照しながら今後進めていきたいなという自治会活動。

もう一つは新しい住民をどうやって取り組むかということも非常にやんなくちゃならないよねっていうところもありまして若い人たちを、移住定住促進に絡むんですけども、芳野地区は今ビッグプロジェクト四つほど、道の駅もそうですし、あと産業団地もそうですし、人の往来がかなり、植物園もリニューアルされたんですね。ただ素通りだけでは、もったいないよね。どう取り込んで生かしていくかなという非常にちょっと悩ましい。実際悩んでおりますんで、その辺の解決策が、調査を含めてやっていけばやっていきたいなというふうに思っています。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

今出ましたのは協働のまちづくりと自治会制度というところで、書いてあるところのテーマ的なところかなと思ひます。

自治会制度についての調査研究をするということに対してのご意見があれば、ありますでしょうか。

私も個人的には自治会長やらせていただいていますんで、いろんな話はあるんですけども、皆様から、こういうのもあるとか、自治会制度についてこういう切り口もあるよとか、こういう見方はどうだろうっていうのもあればと思うんですが。

遠藤委員 話合いですよね。議会として、それぞれ一般質問でね、それぞれやられたことはあるとは思いますが、何人かの自治会長からもね、議会として自治会制度そのものについてしっかり話をしてくれっていうのはやっぱり何回か言われたことがありまして、切り口幾つもあると思うんですよ。本当に僕なんかもやっぱりいろんなところで話合いをしてると二言三言目に必ず出てきますね、自治会制度の話は。だからやっぱりもう地域の中ですごい問題意識は高く、ただなおかつその結論としてはもう毎年毎年全体の加入率は下がっているのは間違いなくて、どうすればいいんだっていうのをこれ簡単な問題じゃないと思いますが、1年かけてしっかり我々議員がいろんな、ほかの事例も見ながら、あと法令条例化してるとこもあるけどそもそも条例つくっただけではっていうところもあるし、じゃどういう具体的な策があるんだと。自治会の相双負担、自治会そのものに落ちてきてる、おりてきてる事務事業の量の多さと内容。あとは役員の方に対する負担、そこらで課題はすごく多いと思うんですよ。やっぱり我々議会っていうのは住民の代表なので、住民のこの抱えてる、課題というか、悩みが大きいんであればやっぱりその代表である我々が、議論すべき大きい課題かなあと僕は寺門委員の話を聞いて感じますし、すごいいいテーマじゃないかなと。

たまたま委員長が自治会長ともこれはね、いいと思うんですよ、すごく。この総務生活常任委員長自らが、自治会制度について、我々を引っ張っていただいて、一つの方向性を議論していく。これ正直テーマにしちゃうと、結論出さなきゃいけないじゃないですか。出せんのかっていう部分は当然あるんですよ。あるんだがしかし、挑むかっていう。いやそれに耐えるテーマではあると思うし、議会がこれについて議論していくんだよっていうのを掲げれば、いろんな市民の声も真正面に受け止めて、当面ちょっとは我々も腹据えて、この1年はやるかっていうもし合意が得られればそれに耐える課題かなあとは感じます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

ほかご意見ありませんか。

小池委員 非常に今遠藤委員の話も確かにいい話だと思います。ただそれと同時に町うちでは自治会加入率って非常に悪いんですよ。ただ私らみたいな寺門委員とか、うちのほうは加入率高いんですけど、先ほど言うように高齢化もあってやはり抜けるを得ない。それと地区の件数の数もどんどん減っている中でやはり木崎地区なら木崎地区でももう今八つ自治会はあるんですけど、それをやはり門部とか、例えば酒出とかはやはり統合していくような考えをしていかないと、門部壊ってところはもう30件切ってるんですよ。

役やる人もほとんどいなくて1人何役もやんなきゃなんない。そうするとそれでも今何とかぎりぎり回してはいるんですけど、うちみたいに120戸ぐらいあれば、それでもやっぱり人がどんどんいなくなって、地区の行事から言ってもやはりソフトボールチームもできない合同チームになってしまう。だからアンケートをとりながら若い人の考えというのもやっぱりあると思うんです。若い人はもう自治会制度がなくてもいいっていう考えで、広報なんてネットで見られますよ。我々やっぱりその我々ぐらいの年代の人は私はこの3月まで班長やっていたんですね。班長やっててやっぱり30件見てたんですけどやはりそこでも、抜けたっていう人がやっぱり2件3件出てきまして、どうしてですかって言ったら役が回ってくるのが嫌だとか、いろんなご意見等々あると思うんです。そういうところは調査しながらですね、どういうふうにしていったらいいのかとかどういう意見がたくさんあるのかっていうのはやっぱり参考にして、揉んでいきたい。それはいいことだと思います。

委員長 ありがとうございます。

木野委員 私も、3月まで評議員やってたんですけども、実際やっぱりその役員を選ぶとなると、結構大変だっていう意見が多くて、この人がいいと思ったんだけど何か事情があって今回駄目だったんですけど話なんかこの間、3月の集まりがあったときにやっぱり話を聞いて、うち自治会のほうは17班あるんですけどそのうちやっぱり1班がもう全部やめてしまったっていう状況があって、自治会長からあって、実際大変なんですって結局、今小池委員も言っていましたやっぱり役をやりたくないっていう、班長回ってくるのは嫌だからっていう部分があって、かといって那珂市の場合のごみ出す部分とかね、いろいろなしがらみがあるので、町うちはいいんですけども田舎のほうって結構そういう細かい部分があるので、その皆さんなど細かい意見を聞くことが大事なのかなとは思っています。

また今回、自治会長も高齢になってきたので自分はやめたいんだけどやっぱりこの後継者がいないっていうね、現状問題があってやっぱり大変だというのは改めて、感じましたし、うちのほうは結構極端な話、市職員のOBが自治会の役員やるっていうのが結構多いんですよ。瓜連地区まちづくり委員会としても、11自治会あるんですけども、そのうち幾つかが市の職員のOBの方がされているっていうそういう現状があって、結構そういうのを考えると相当負担になっているのかなと、それを考えるとこのまちづくりについて自治会っていうことに関して調べたほうがいいんじゃないかって私も思います。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

副委員長 私も皆さんと同じでいろんな問題があるっていうのは、根底にあることなんですけれども、でも、自治会って、強制ではなく任意なものですし、小池委員おっしゃられたように、場所によってその自治会によって、問題も違うし、今その問題が起きてる原因

も違うと思うので、それを議会としてというか、委員として委員会として、話し合うという何を話し合うのか何か机上の空論にならないのかということか、本当に問題が違う中で、その自治会に対してどのようなアプローチができるのか委員として、それがちょっと今見えないというか、それがちょっと本音のところでもあります。

自治会によっては様々工夫してらっしゃるところももちろんあるので、そういったのを各自治会の方々が、見ていただいて参考にさせていただくとかそういったこと、必要だと思うんですけど、それを委員会としてどうアプローチするのかが、すみませんちょっと、なかなか難しいかなと思っています。

委員長 ありがとうございます。

自治会制度についてというので調査事項という話も出たんですが、今副委員長から出たのはこれテーマがちょっと、調査事項としてまとまるのかなというような不安の声という中では私は、先ほど遠藤委員言っていただきましたけど、自治会長やってる立場から言わせてもらおうと、やはり自治会長は割と他の自治会がどうしてるのかっていうのは気にはなるんですね。

まちづくり委員会でも菅谷の自治会長16人いまして、自治会長会っていうのもあるんですけども、そこでも話し合いはあるんですけども、自治会長って結構皆さん意見が強いんで、余りまとまらない。正直なところ市にこれは要望してくれと、例えば街灯代ですよく言われるのは。笠間市は市で払うようになったと聞いてますけれども、そういう話とかもありながらも、でも、なかなかその意見の統一として全自治会長がというようなふうにはまとまらないというのはやっぱり菅谷の自治会長の中でも、私たちは上宿第一っていうんですけども、他の福田のほうとか、堀の内の方とか、寄居のほうとかそちらのほうはですね街灯あんまりなくて、そんなに困らないっていうんですね。だから街灯代の負担もそれほど、困ってるわけじゃないからそこまでなくていいみたいですね。

そういったところをやっぱり調査をしながら、こういうふうなところは改善の余地があるよというところを見つけていくことは可能なんではないかなというふうには私を思っています。皆さんのこのまちづくり、自治会制度についてというようなテーマについては、最終的に市のほうにこういうふうなことで困っている自治会があるからこういうところに対しては、こういう手当てをしてほしいというようなのを掘り起こす、まちづくり委員会がやってると言えばやってるのかもしれない中で、そこはちょっとまちづくり委員会等をお話を聞いてみてからじゃないと分からないかなという部分も感じはしますけどもね。候補としてまず一つは、これ上げておきたいと思います。

木野委員、今の件で副委員長にお話しされたんですけども、実際私中台の自治会長された方の話を聞いたことあるんですけども、ほかの自治会でやめたいっていう方がいらっしゃると、その地区はやめる方が少ないので、どうしてなんですかってやっぱり意見を求めら

れて、自分が行って説明したことがあるっていうんですね。だから、その自治会からの、委員長お話をされたように交流って余りないと思うんですよ。だからそういったこのいいところの部分とか、そういったところやっぱりよくに皆さんに話してあげることやっぱり大事なのかなと思うんですよね。そういうのも、やっぱり各自治会の方もいろんな意見持ってると思うんですよ。まずはやっぱりその聞いてみることも大事なのかなって私も思ったところがございます。

委員長 ありがとうございます。

調査事項は一つとは限らないので、一つとしては上げていってもいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

遠藤委員 その方向でいいと思うんです。

調査事項にしたらどうやるかなんですけど、今やっぱりおっしゃったようにまず聞くことだと思いますよ。現状を、自治会長の皆さんも、ちょうどどうなんだろうな、ずっと長い方は長くて課題をずっと抱えてらっしゃると思いますが、なったばかりの方もいらっしゃるねこの時期ね。各地区どういうふうにして話をお聞きするかもありますが、一つはまちづくり委員会が、ある程度この組織としては束ねているところがあるから、まちづくり委員会の皆さん、まちづくり委員長会議があるじゃないですかね。そういったところとの意見交換となると、委員長まずやっぱりいろんな各地区地区の菅谷地区であれば菅谷地区の自治会長、木崎なら木崎地区の自治会長の声を吸い上げていると思うので、そういったこちらから出向いてもお呼びしてもいいですけど、そういうまちづくり委員長会議とのね、議会の常任委員会との意見交換もあってもいいと思うしとにかく何が今困ってますか、何が困ってますかってまず聞いてあとはそれを多分、多分じゃなく毎年行政に投げてるんですよね、それを。これは市民協働課に投げてると思うんだけど今度は市がどうやって、この自治会とかまちづくり委員会に今、向き合ってるかっていうのも、市の負担をお聞きして、多分その事務、どういったものを今自治会とかまちづくり委員会にお願いしてるかその内容と分量も確認をした上で、それが実際にまちづくり委員会とか自治会で受けているけど、どういった負担になってるのかっていうのはやっぱり双方の考えを聞いた上で、やっぱり最終的には100%の回答はないですけど、少しでも自治会加入率アップが本来目的だとは思いますが、それに向けてちょっと今無理無駄が出てるものがあるんだったらそれをちょっと僕らの委員会ですっかりと聞いた上で提言できることがあれば1年間かけてやればいいのかと思うし、その中で今度は那珂市だけじゃない、ほかのところでも何かうまくいってる事例があれば、調査研究をして、そういった話を聞きに行くのもいいかもしれない。

なかなかこれ全国の課題だとは思ってますけど、ただやっぱりね市民が困ってるんで、それは何とかしなきゃいけないと思うし場合によっては、各自治会長とかまちづくり委員長が提案、市に提案、行政に提案しただけではやっぱり聞いてくれないとか、なかな

か通らないことがあるかもしれないから、我々が最大公約数的なものをボンとしっかり市に最後提案できればいいのかなあと感じはするんですけどね。

まずは聞くまずは聞くと、平たくね、その作業から始まっていくということで、どうなんだろうなと思いますけど、もう一つ何か上げるとすれば僕やっぱ環境問題がすごく環境問題はもう本当待ったなしなんで、それからこの気候変動を地球温暖化の防止に向けて、市としてできることは何かもう実行計画ありますよ、ありますからね。ただそういったものが実際本当にきちんとできているかどうかを検証しながら、向かってくってのテーマとしてありだと思ってます。

以上です。

委員長 ありがとうございます。

今の話でいきますと、私たちは議会議員ですので、場合によっては協働のまちづくり基本条例の改定案を出すということで、やろうと思えばできますので、いろんな意見を聞きながらそういったところまでいけば1番いいですけども、自治会制度については1年かけてやっていく価値はあるかなというふうに感じております。

それから、今お話出ました環境問題、ということなんですけども、環境問題というところとすごく広いテーマになるかと思うんですね。この6番のごみ問題とエコタウン構想も環境問題といえば環境問題なんです。エコタウンは結局消費電力を抑えてみたいところだと思うんですけども、なるべく化石燃料に頼らないみたいな、そういったところで、もうちょっと具体的にどういったところの環境問題なのかをお話し頂けるとありがたいと思います。

遠藤委員 ちょっと前に提案していることであるんですがこれに近い、防災とも絡むんですが、やっぱり例えば大規模災害が起きて停電したときに、やっぱりその那珂市だけは、そういう何かしらの再生可能エネルギーとか、太陽光なんかをね、ありますからそういったもので那珂市だけはそういったものが守られるみたいな、自家発電ができてとか、そういったものに向けての提案勉強と提案ができるといいなというふうに思ってますね。

委員長 その意見について何か皆さんからございますか。

何かこういうこういう切り口もあるよとか、副委員長。

副委員長 私も環境問題すごく大切なことだなと思っていて、今生ごみが多い、一緒に今燃やしてことで、すごく燃料も使わなきゃいけないとか、市としても補助は出てると思うんですけど生ごみの対策みたいなやつで、何かもっとできることとやってないのかなという風に常々思っていたので、ごみも含めたこというのを、ほかの市とかではどうしてるのかということも含めてやってみるのもいいのかなという意見はあります。

委員長 ありがとうございます。

これは進め方としてはどこから入っていけばいいんですね。

広いですね。さっきの自治会のほうは話を聞くという入り口から入ってたかと思うん

ですけど、今回のこれはどこから調べるっていうところから。

寺門委員 ごみ問題については4月から新しく改定になって排出の仕方、廃プラと分けてということで、始まってますんで、これも実際どうなっているのかって非常に我々としても調査をして把握しておくべきだなというふうには思います。というのは名前の記名云々もありましたけれども、実際に各家庭の人は、かなり減ったなっていう印象を持ってと思うんですよ、可燃ごみは。今まではどうだったのかっていうのと今どれだけ減ってるよという、実際とそれって環境にどれぐらいいい影響を与えてんのっていうところが一つ、やっぱり調査しておいてもう一度ごみ問題を考えるべきだなっていうのが一つと。あとはその排出も実際に町場菅谷地区の都会と田舎って、畑、田んぼが多いところではやっぱり朝晩燃やす方が多いんですよ、各家庭で。要するに例えば庭木だとか落ち葉だとかもそうですし、例えばよしずを燃やしたりだとかいろいろ、その燃やしちゃいけないが実際やってるんで、その辺やっぱり調査しておくべきかなあというのは一つありますよね。片や一生懸命やってるところといやそうじゃないところがあって、例えば農業の廃ごみなんかはね、届出してちゃんと排出したりあとは植木も届出しておけば、燃やせるというのはあるんですけども、実際にはごみの処理についても、今後やっぱり、こうしたほうがいいよってのは我々も提案をしていくべきかなというふうには思いますね。

委員長 ありがとうございます。

今環境問題というところから入ったんですが、今、切り口した遠藤委員はエネルギー問題、鈴木委員、寺門委員はごみ問題というところで、ちょっとやっぱり間口が広いというか、どういうふうに環境問題って言ったときに入っていくかっていうのが、一つ。これを決めないというところあります。ごみを処分してエネルギーに変えるって1番いいですけど、なかなかそれは調査事項としては難しいかなと思いますので。

寺門委員 そこは焼却炉が今、エネルギー生み出す仕組みになってるんで、そういう実際市民の方は知らないよね。あとは環境エネルギー問題でいえば、再生エネルギーに個人負担って皆さん各世帯で、開発費用で多いところだと僕の家庭言うと年間4万円とか払ってるんですよ。再生エネルギー開発生み出すために維持していくために。その辺も、那珂市に置き換えての遠藤委員が言うようにね、どれぐらい皆さん、使って、今後新しいエネルギーについてどういうふうに考えてんのっていうところは、市としても、我々委員会としても考えておくべきかなというのはありますね。

ごみにするかその全体の新しい再生エネルギーにするかっていう、私は、直近のところから始めたほうがいいとは思ってますよね。ごみ問題、いずれにしても環境のあたり、大きなエネルギーという話にはつながってくる話なんで、それはそれで第2段階でやればいいのかというふうには思います。

遠藤委員 ごめんなさい、環境の話を出したからちょっと広がっちゃって申し訳ないんだけど、

ただ、よく考えてみたらさっきのテーマは自治会でいいと思うんですが、自治会の中でもごみ問題あるじゃないですか。

寺門委員 ありますね。

遠藤委員 自治会というテーマの中で、ごみの出し方とか、班に入っていない人どうするみたいなものを自治会という一つのテーマの中でもちょっとね、議論できるところあるかなという観点で、ただごみっていうと鈴木副委員長おっしゃったような、環境問題づくりではないんだがしかし、ちょっとごみ問題に関しては、自治会というテーマの中でも少し、探れるのかなあという感じもするので今日ちょっとテーマ決めなきゃいけないんでしょから、一つは大きく自治会の中でどうかなとは思いますがどうかですかね。

委員長 確かにごみの出し方が4月から変わって、委員会としては追っかけていきたいテーマの一つだとは思いますが。そういった中では、先ほど副委員長おっしゃったように生ごみの処理の仕方とかも、これも自治会で取り組んでるところももしかしたらあるかもしれない。そういったところも調査しながらっていう、そういう形でいいですかね。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 ほかに何かこれだけやりたいんだっていうのがあれば声を大にして言っていたいで。

副委員長 声を大にしていることではないんですが、今度は道の駅も計画されているということもあるので、ふるさと納税と返礼品っていうのはずっと那珂市でも課題ではあったことですし、近隣の水戸市とかだと、今まで、落ちていたのが増加傾向であるっていう話もあったりとかするので、何かこう、その課題の解決というかそういったことも、調査できるのかなっていうのはあります。

委員長 先ほど冒頭申し上げましたように調査事項の一つじゃなくてもいいと思うんですが、ふるさと納税については皆さんどうでしょうか。

これについてご意見とか、確かに、やるべきだとか、やったって無駄だとか、いろいろな意見があるかと思うんですけども、どうでしょう。

遠藤委員 そのテーマも当然大事なんですけど、一つでいいんじゃないかとテーマ自体は結構幅広ですよ自治会っていうと。本当に腰据えてやろうとしたら、結構大変だと思うんですけど。できれば別に、正副委員長の差配でどうでしょうという感じですけど。

小池委員 一応2年、委員会がございまして、例えば先ほどの自治会の件は自治会の件で幅も広いし奥も深いので、1年通してそれを調査して、もう一つ何かを決めるのであればまた次の年というふうに、自治会のことの先ほどのお話も、いろんな問題がたくさんあるんですね。加入率からごみの問題からいろいろ地区の問題、あとはもう防犯上の問題もたくさんあると思うのでそれを本当に1から10までよくよくちゃんと調査をして、まとめられるように1年かけてやったほうがいいと思うんですが、と思います。

委員長 ありがとうございます。という意見もありますが、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 今年協働のまちづくりと自治会制度について、総務生活常任委員会の調査事項とするということでよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 ありがとうございます。ではそれではまず決定した調査事項について、市民協働課にお話をまず伺うところから始めていければいいかなというふうに思いますがよろしいでしょうか、そういう流れで。

(「はい」と呼ぶ声あり)

委員長 では日程等決まりましたらラインワークスでお知らせのほうをさせていただきます。

語ろう会とかも、まちづくり委員長にするのか自治会長にするのか等も含め、今後また検討をしていきたいというふうに思います。よろしく願いいたします。

そうですね市民協働課を呼ぶに当たって、何か具体的にこれを聞きたいということがあれば、事前に通告しておいてもらえるとスムーズに話が進むかというふうに思いますので。

小池委員 例えば市民協働課ではいろいろ各地区のまちづくりとか自治会のほうから意見等々いただいていると思うので、例えば先ほど寺門委員もおっしゃったように、木野委員がおっしゃったように、どういう自治体で班が一気に抜けてなくなるところがあるのかとか、どういう地区でそういうところが多々多いのかとかそういうところ、ぎくばらんのところちょっと聞ければなと思いますけど、離脱率とか。

寺門委員 あとは各自治会で結構、うちはここを一生懸命やってるよっていう成功例っていうか、そういう事例もあると思うんです、たくさんね。その辺もちょっとあわせて聞いておいていただければ。例えばその役員の改正については、副委員長の方が次は会長をやるとか、そういう決め事してるだとか、いうところもあるでしょうね。その辺もあわせて聞いていただければと思います。

小池委員 白河内自治会、私のいる自治会なんですけど前の自治会長は、8年も9年も10年もやっているような長いスパンでやるところなんですけれども、それではもうやる人がいないというので、副を2年やって、会長2年やる。副の方、会長の方2年ずつやってスライドしていくっていうふうに今度変えたんですね、去年からですけど。それが何年後までもつのか分かりませんが一応そういうふうに変える自治会も、うちのほうでもあります。ですからそういうところもちょっとね、寺門委員がおっしゃったように、聞いていただければと思います。

委員長 具体的には市民協働課に今の現状、自治会長が何年目かっていうリストを出してもらうように要請をしましょうか。次の会長が決まっているから、それアンケート取らないと無理ですね。そうですね、現状のデータだけいただくようにしましょうか。

遠藤委員 現状もさることながらここ5年ぐらいの加入率。何%っていうのは、あと自治会ごとの加入率で表出てると思うんで、前も見たことあるからそれちょっと現状把握という

意味では知りたいかなあというのと、あと自主防災組織も本当はセットでやってるじゃないですか自治会って、僕って本当は加入率を保つかどうかは、防災に絡めるのがすごくポイントだと思っていて、あそこらだからちょっとどこまでやるかですけどね、あと民生委員の問題もどこまでやるかですけど、そこらをちょっとやっぱ成り手がいないという意味では、その負担感とかね、そこらをちょっと考えるとあれですが、もうちょっと数字が欲しいなっていうところです。そこらをちょっとお願いできればいいかなと思いますね。

副委員長 もし年齢層とかも分かれば。高齢の方が多いのかなとか、もし分かれば。

小池委員 先ほど自主防災組織の話が遠藤委員のほうから出ましたけれども、確かに成り手がないって遠藤委員もおっしゃいましたけど私、那珂町の時代から20年、情報部長をずっと紙に書いてあってやっております。毎年防災訓練がありますけれども、平野台について2番目にできたのは白河内自主防災クラブだったんですけども、那珂市になって2番目だったんですが、今でもそれは存続して、防災訓練のときには機材を全部展示しながらやってるんですけど、ただ、毎年人がこない。どんどん減ってるというのも課題になっておりますし、そういうところもちょっと聞きたいもんですね。

委員長 市民協働課にちょっと打診しまして、どこまで答えられるか分かりませんが、情報把握するために、データのほうを要請したいと思います。

次回日程は先ほど申しましたようにラインワークスでご連絡いたします。

以上でよろしいでしょうか。

本日の案件は全て終了いたしました。

以上で総務生活常任委員会を終了させていただきます。

お疲れさまでした。

閉会（午前10時38分）

令和8年5月26日

那珂市議会 総務生活常任委員会委員長 小宅 清史